

本年3月に県福祉医療部から2017(平成29)年の報告書が冊子となって届いた。病院に1冊のもので、余り多くの人の目に届くものではない。冊子内の記述を一部抜粋して、奈良県のがんの現状を紹介する。

【新規罹患患者11384名(男6583名、女4801名)の 部位内訳と年齢別に見た罹患】(表1)

- ①男性では胃癌(17.1%)で最多、次いで前立腺(16.8%)、肺癌(14.0%)。
- ②女性では乳癌(22.0%)、胃癌(11.2%)、大腸(10.1%)。
- ③男性の約80%、女性の70%が65歳以上。
- ④40~64歳の年齢層は、男性で約17%、女性で30%を占める。
- ⑤部位別の年齢階級別罹患率ではほとんどの部位において、年齢が高くなるほど罹患率が高い。
- ⑥女性の乳癌は30歳以上から増え始め、75~79歳で最多となる。
- ⑦子宮頸癌は20歳代~40歳代前半で上昇が見られる。
- ⑧子宮体癌は40歳代から増え始め50歳代で最多となる。

表1 《年齢階級別内訳》(単位%) ※上皮内がんを除く

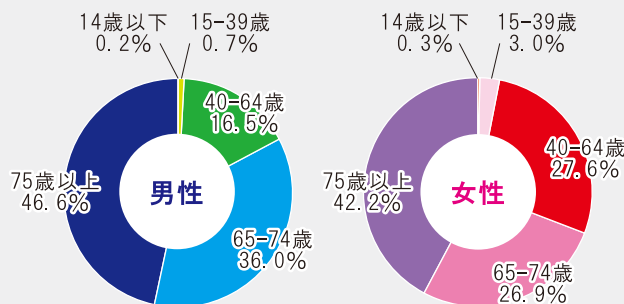
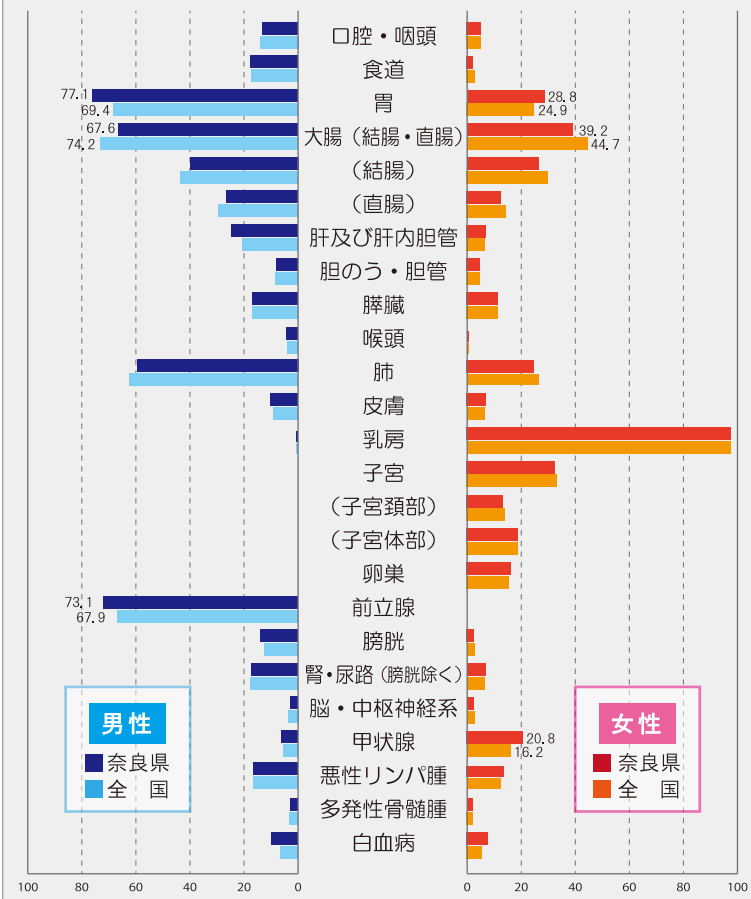


表2 2017年《部位別がん年齢調査罹患率》人口10万対
(※ 全国値は、厚生労働省HP「平成29年全国がん登録罹患率・率 報告」より引用)



【部位別の奈良県の癌罹患の特徴】(表2)

- ①奈良県が全国値より低いのは、男女とも大腸癌。
- ②高いのは、男性が胃癌と前立腺癌、女性が甲状腺癌と胃癌。

【発見の経緯】

一般にドック検診が行われている、胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、「がん検診・健康診断・人間ドック」が発見の経緯となった割合は、胃14.3%、大腸21.6%、肺10%、乳房25.2%、子宮頸部30.6%であった。

【病期】

- ①がん検診などの対象となる胃、大腸、乳房、子宮、前立腺などは、発見時に50%程度が限局していた。
- ②肺36%、胆嚢胆管19%、膵12.9%と限局していたものが少ない。
- ③肺の発見時遠隔転移は36.1%で最多。
- ④逆に発見時限局していたものは肝59.6%で、乳房66.9%、子宮体部74.5%、子宮頸部80.3%と高値。

【死亡の概要】

- ①男性は肺(24.5%)、胃(14.4%)、肝および肝内胆管(10.2%)の順に高かった。
- ②女性は肺(14.7%)、胃(12.2%)、結腸(10.6%)の順であった。

【奈良県のがん死亡の特徴】

- ①全国より奈良県で死亡率が低かったのは、男女とも大腸癌。
- ②奈良県で死亡率が高いのは、男性が肝および肝内胆管癌、女性が肺癌。

～最後に、感想に替えて～

医学部の講義で、「奈良は熱い茶粥の影響で食道癌が多い」と教わった。しかし、今は違うようだ。食道癌ではなく胃癌が多い。これも奈良の食生活の影響なのだろうか。

高齢になるほど癌の罹患率も高く死亡率も高くなる。日常診療で高齢者を診る時は、特に肺癌と胃癌に注意！やっぱり検診は重要！奈良県では「肺癌と胃癌」にLOCK ON(ロックオン)！である。

※グラフは全国がん登録奈良県報告書2017年(Webで公開)に基づき作成しました。